猫の習性

猫を飼ったり、世話をするなど、猫と関わる際には、猫がどのような動物か理解しましょう。

(1) 繁殖

オスは、生後６か月頃から初歩的な性行動が見られるようになり、一般的には、生後 18 か月頃から放浪癖、喧嘩、尿を壁などに吹き付ける尿スプレーが顕著となります。

メスは、生後４～５か月頃から発情が始まり、一般的に発情の頻度は、年に４回、約３か月の間隔で、約１週間続きます。猫は交尾の刺激で排卵するため、高い確率で妊娠します。

猫の妊娠期間は 63 日前後で、１回の出産で３～８匹産みます。例えば、１匹の猫が１回の出産でオス３匹メス３匹産み、年４回出産すると、その子供、孫も出産することから、計算上、１匹のメス猫から１年間で 240 匹の猫が家族して産まれることになります。

実例としては、ある地域で、１匹の妊娠していたメスを保護し、そのメスと出産した子猫を避妊去勢手術しないまま屋内で飼養していたところ、１年目で 20 匹以上、２年目で 70 匹以上に繁殖したとの報告もあります。

(2) 社会生活

猫は、一般的に単独で生活し、一定の広さの縄張りをもちます。縄張りには、寝たり食べたりするエリアと、狩猟の場のハンティングエリアがあります。寝たり食べたりするエリアに他の猫が侵入してくると、喧嘩になることもあります。ハンティングエリアは、他の猫との共有の場であり、顔見知りの猫同士は、ケンカにはならない場合が多いようです。

縄張りは、他の猫と重複することがありますが、同じ場所であっても時間的な住み分けなどをしています。獲物が少なければ広い縄張りが必要になりますが、獲物が多ければ縄張りは狭くても十分なので、屋内だけで飼養しても猫にとって問題になることはありません。

(3) 運動

猫は高い場所が好きです。これは、獲物を捕るときに木の上で待ち伏せしたり、逆に身に危険が及んだときには木に登って危険を避けるという野生時代の本能のなごりだと考えられています。高い場所に登ると視野が広がり、広範囲まで観察することが出来ることから、猫にとって高い場所は、安全で落ち着ける場所なのです。

立体的に自由に運動できるようにすれば、屋内だけで飼養しても猫にとって問題になることはありません。また、猫は、優れた反射神経と平衡感覚をもっているため、体の５倍の高さまでジャンプできたり、高いところから飛び降りても上手に着地できます。

(4) マーキング

猫同士のコミュニケーションをとる手段として、匂いによる情報伝達があります。縄張りには、顔や脇腹の擦り付けや、爪研ぎ、特にオスでは尿スプレー(尿マーキング)を行い、自分の存在を示します。オスは、発情前に去勢手術をするとほとんどの猫の尿スプレーが減り、独特の臭いが軽減されます。

(5) 鳴き声

子猫が母猫に甘えたり、成猫では発情期の鳴き声など猫同士のコミュニケーションの手段ではありますが、通常、鳴き声によるコミュニケーションはほとんど交わされず、警戒や威嚇、闘争の際に鳴き声を発します。人に対しては、餌の催促など、鳴き声で意思表示をします。

(6) 夜行性

猫は、本来、夜行性で、暗闇でも視力が働きます。飼い猫は、飼い主の生活リズムにより、昼夜を問わず行動します。

(7) グルーミング

猫は、清潔好きで、体をなめたり、前肢で顔を洗うような動作をします。猫同士がなめ合うのは、気の合った仲間であることを示しています。不安やストレスが続くと毛づくろいの頻度が高くなります。

(8) 食事

猫は、食べ物に対する適応力は高いですが、本来は肉食性で、昼夜を問わずに頻繁に少量ずつ食べます。また、高タンパクで高脂肪の餌を好み、人間と必要とする栄養素が異なるほか、体内で合成できるビタミンやアミノ酸も異なるので、餌の栄養バランスが重要です。

人間の食べ物、残飯は与えず、栄養面で安心できるキャットフードを与えるようにしましょう。なお、餌も水も新鮮なものを与えるようにしましょう。

(9) 排泄

猫は、排泄する時に砂など柔らかい場所に穴を掘り、そこに排泄し、排泄後はその上に砂などをかけて隠す習性があります。その習性を利用すれば、比較的簡単にしつけできます。猫はきれい好きですので、トイレは清潔に保ちましょう。